

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
疾病の発生と病理的变化	1単位(30)	1年次 6月	外部講師	あり(医師)

科目目標: 疾病の原因や発生病理、形態と機能および代謝変化の原理を理解する

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回	1 疾病概論 ・疾病の誘因と回復力 ・個人差と個人の反応: 生活習慣病	講義	外部講師 (医師)
2回	2 組織を構成する細胞の構造・機能とその障害 1) 壊死とアポトーシス 2) 萎縮と低形成		
3回	3 細胞・組織の修復と再生		
4回	1) 再生、化生 2) 創傷治癒と肉芽組織 3) 肥大と過形成		
5回	4 細胞・組織に生じる病変とメカニズム		
6回	1) 循環障害(虚血・梗塞・充血・うっ血・浮腫・腹水・胸水) 2) 炎症		
7回	3) 免疫機構とその異常: アレルギーと自己免疫		
8回	4) 感染症(感染免疫を中心に) 5) 代謝障害		
9回	6) 腫瘍		
10回	5 生命危機 1) ショック ① 一般的症状 ② 分類(重症度・病態)	講義	外部講師 (医師)
11回	2) 播種性血管内凝固症候群(DIC) ① 病態 ② 要因 ③ 症状・治療		
12回	3) 多臓器不全(MOF) ① 多臓器不全を起こしやすい疾患、病態等 ② 発生機序		
13回	4) 熱傷 ① 受傷面積の算定 ② 熱傷深度分類 ③ 熱傷指数と熱傷予後指数の算定	講義	外部講師 (医師)
14回	6 死の徴候 1) 死の定義 2) 脳死と心臓死		
15回	修了認定試験: 筆記試験100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	カラーで学べる病理学 ニューヴェルヒロカワ		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
感染症と微生物	1単位(30)	1年次7月	外部講師	—

- 科目目標
- 1 病原微生物が人体におよぼす影響と生体防御機能について理解する。
  - 2 病原微生物の特徴、主要症状、診断、治療について理解する。
  - 3 感染予防について理解する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師	
1回 2回	1) 感染とその防御 (1) 感染成立から発症のしくみ 市中感染・院内感染・日和見感染	講義	外部講師	
3回 4回	(2) 感染に対する生体防御機構(免疫) 液性免疫、細胞性免疫			
5回 6回	2) 主な病原微生物と感染症 (1) 細菌の特徴、臨床症状、診断、治療 (2) 真菌の特徴、臨床症状、診断、治療 (3) 原虫・寄生虫の特徴、臨床症状、診断、治療 (4) ウイルスの特徴、臨床症状、診断、治療			
7回	3) 滅菌と消毒 (1) 熱による滅菌、消毒 (2) 熱によらない滅菌、消毒 (3) 消毒剤			
8回	4) 化学療法 (1) 概念と歴史 (2) 作用のメカニズム (3) 主な化学療法剤の特徴 (4) 薬剤耐性菌 (5) 感受性試験			
9回	5) 微生物学的検査法 (1) 細菌の検査法 (2) ウイルスの検査法 (3) 真菌および原虫の検査法			
10回	6) 感染症の予防 (1) 感染源対策 (2) 感染経路対策 (3) 感染症に対する行政的対応			
11回 12回 13回 14回	7) 微生物学各論 (1) 細菌 (2) ウイルス (3) 真菌 (4) 原虫			
15回	修了認定試験:筆記試験 100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)			筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)
使用テキスト	ビジュアル微生物学 ヌーヴェルヒロカワ			

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
疾病と治療 I 呼吸器・循環器・腎泌尿器 の疾病と治療	1単位(30)	1年次 9月	外部講師	あり(医師)

科目目標:

- 1 呼吸器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な、主な疾病の病態、診断、治療の基礎を理解する。
- 2 循環器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な、主な疾病の病態、診断、治療の基礎を理解する。
- 3 腎泌尿器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な、主な疾病の病態、診断、治療の基礎を理解する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回	1 呼吸器系	講義	外部講師 (医師)
2回	(1) 病態生理と主な症状		
3回	①肺がん ②肺炎 ③気管支炎 ④気管支喘息		
4回	⑤気胸 ⑥肺結核 ⑦呼吸窮迫症候群 ⑧COPD		
5回	(2) 主な検査 ①呼吸機能検査 ②気管支鏡 等		
6回	(3) 主な治療 ①酸素療法 ②肺理学療法 ③手術療法 ④薬物療法 ⑤放射線療法 ⑥胸腔ドレナージ 等		
6回	2 循環器系	講義	外部講師 (医師)
7回	(1) 病態生理と主な症状		
8回	①心筋梗塞 ②狭心症 ③心筋疾患 ④心不全		
9回	⑤先天性心疾患 ⑥心臓弁膜症 ⑦大動脈瘤		
10回	(2) 主な検査 ①心臓カテーテル法 ②生理学的検査(心電図など) 等		
11回	(3) 主な治療 ①手術療法(バイパス術 弁置換術など) ②経皮的冠動脈形成術(PTCA) ③ペースメーカー埋め込み ④薬物療法 ⑤食事療法 ⑥安静療法 等		
11回	3 腎泌尿器系	講義	外部講師 (医師)
12回	(1) 病態生理と主な症状		
13回	〈腎〉①腎不全 ②ネフローゼ症候群 ③腎炎 ④糖尿病性腎症		
14回	〈泌尿器〉①腎・尿路結石 ②腎盂および尿管腫瘍 ③過活動膀胱、腹圧性尿失禁、夜尿症		
15回	(2) 主な検査 ①血液検査 ②生検 ③血管造影 ④腎機能検査 ⑤RI検査 等		
16回	(3) 主な治療 ①安静療法 ②薬物療法 ③手術療法 ④食事療法 ⑤血液浄化療法 等		
15回	修了認定試験:筆記試験 100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学② 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学③ 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
疾病と治療Ⅱ 自己免疫・内分泌代謝・消化器の 疾病と治療	1単位(30)	2年次 4月	外部講師	あり(医師)

科目目標:

- 1 自己免疫系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な、主な疾病の病態、診断、治療の基礎を理解する。
- 2 内分泌代謝系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な、主な疾病の病態、診断、治療の基礎を理解する。
- 3 消化器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な、主な疾病の病態、診断、治療の基礎を理解する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師		
1回	1 自己免疫系・アレルギー疾患 (1) 病態生理と主な症状	講義	外部講師 (医師)		
2回	①SLE ②リウマチ ③ シェーグレン症候群				
3回	④全身性硬化症(強皮症) ⑤多発性筋炎・皮膚筋炎 ⑥川崎病				
4回	(2) 主な検査 血液検査 他 (3) 主な治療 薬物療法 他				
5回	2 内分泌系 (1) 病態生理と主な症状 ①ACTH産生腫瘍(クッシング病) ②尿崩症	講義	外部講師 (医師)		
6回	③バセドウ病(甲状腺クレーゼ) ④副甲状腺機能低下症(テナー) ⑤原発性アルドステロン症 ⑥クッシング症候群 ⑦アジソン病 (2) 主な検査 ①血液検査 ②尿検査 ③画像検査 等 (3) 主な治療 ①手術療法 ②薬物療法 他				
7回	3 代謝系 (1) 病態生理と主な症状 ①糖尿病 ②脂質代謝異常 ③高尿酸血症・痛風 (2) 主な検査 ①血液検査 ②尿検査 ③画像検査 等 (3) 主な治療 ①食事療法 ②運動療法 ③薬物療法 他				
8回					
9回	4 体液調整系 (1) 病態生理と主な症状 ①水・電解質の異常 脱水、浮腫、低ナトリウム血症、□ 高カリウム血症 ②酸塩基平衡の異常 アシドーシス、アルカローシス (2) 主な検査と治療				
10回	5 消化器系 (1) 病態生理と主な症状			講義	外部講師 (医師)
11回	①食道がん ②胃がん ③胃・十二指腸潰瘍 ④潰瘍性大腸炎				
12回	⑤クローン病 ⑥イレウス ⑦大腸がん				
13回	⑧肝炎 ⑨肝硬変 ⑩脂肪肝 ⑪肝臓がん				
14回	⑫胆石 ⑬膵炎 ⑭膵がん ⑮食道閉鎖 ⑯鎖肛 ⑰腸重積 (2) 主な検査 ①画像検査 ②内視鏡検査 ③生検 ④血液検査 他 (3) 主な治療 ①化学療法 ②手術療法 ③食事療法 他				
15回	修了認定試験:筆記試験 100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学①アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学⑤ 消化器 医学書院				

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
疾病と治療Ⅲ 脳神経・運動器の疾病と治療	1単位(30)	1年次 9月	外部講師	あり(医師)

科目目標:

- 1 脳神経系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な、主な疾病の病態・診断・治療の基礎を理解する。
- 2 運動器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な、主な疾病の病態・診断・治療の基礎を理解する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回	1 脳神経系 (1) 病態生理と主な症状	講義	外部講師 (医師)
2回	①脳梗塞 ②脳出血 ③くも膜下出血 ④脳腫瘍		
3回	⑤パーキンソン病 ⑥脊髄小脳変性症 ⑦ALS ⑧認知症		
4回	⑨脱髄性疾患 ⑩脳性まひ ⑪髄膜炎 ⑫ギランバレー症候群		
5回	(2) 主な検査		
6回	①血管造影 ②CT ③MRI ④髄液検査 他		
7回	(3) 主な治療		
8回	①手術療法 ②脳室ドレナージ、シャント術 他		
9回	2 運動器系 (1) 病態生理と主な症状	講義	外部講師 (医師)
10回	①骨折 ②骨粗しょう症 ③椎間板ヘルニア ④脊髄損傷		
11回	⑤半月板損傷 ⑥股関節症 ⑦先天性股関節脱臼 ⑧骨腫瘍		
12回	⑨骨髄炎		
12回	(2) 主な検査		
13回	①画像検査 ②脊髄検査 ③筋電図		
14回	④知覚検査 ⑤RI検査 ⑥関節鏡 他		
13回	(3) 主な治療		
14回	①安静療法 ②牽引療法 ③固定法(ギプス、装具)		
14回	④手術療法 ⑤リハビリテーション 他		
15回	修了認定試験:筆記試験 100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学⑩ 運動器 医学書院		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
疾病と治療Ⅳ 感覚器・血液リンパ・女性生殖器の疾病と治療	1単位(30)	2年次4月	外部講師	あり(医師)

科目目標:

- 1 感覚器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な、主な疾病の病態・診断・治療の基礎を理解する。
- 2 血液・リンパ系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な、主な疾病の病態・診断・治療の基礎を理解する。
- 3 女性生殖器に疾病を持つ人のアセスメントに必要な、主な疾病の病態・診断・治療の基礎を理解する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回          2回	1 感覚器系 (1) 耳鼻咽喉疾患 ①病態生理と主な症状 a 中耳炎 b 副鼻腔炎 c メニエル病 d 難聴(伝音性・感音性) e 扁桃炎 f 咽頭・喉頭がん g アレルギー性鼻炎 ②主な検査 a 聴力検査 b 平衡感覚検査 c 副鼻腔検査 d 通気検査 等 ③主な治療 a 洗浄 b 塗布、噴霧 c 穿刺・切開 d 手術療法 e 放射線療法 f 薬物療法 等	講義	外部講師 (医師)
3回   4回	(2) 皮膚疾患 ①病態生理と主な症状 a 熱傷 b 湿疹 c アトピー性皮膚炎 d 乾癬 e 白癬 f 褥瘡 ②主な検査 a パッチテスト b プリックテスト c スクラッチテスト d RAST法 等 ③主な治療 a 薬物療法 b 手術療法 c レーザー等	講義	外部講師 (医師)
5回   6回	(3) 眼疾患 ①病態生理と主な症状 a 白内障 b 緑内障 c 網膜はく離 d 結膜・角膜炎 e 糖尿病性網膜症 ②主な検査 a 視力検査 b 視野検査 c 眼底検査 d 眼圧測定 等 ③主な治療 a 薬物療法 b 手術療法 等	講義	外部講師 (医師)
7回	(4) 口腔疾患 ①病態生理と主な症状および治療 a う歯 b 歯周疾患 c 咀嚼障害(咬合障害)	講義	外部講師 (医師)

授業回数	授業計画	授業方法	講師
8回 9回 10回 11回	2 血液・造血器系 (1) 病態生理と主な症状 ①白血病 ②悪性リンパ腫 ③多発性骨髄腫 ④DIC ⑤紫斑病 (2) 主な検査・治療 ①骨髄穿刺 ②化学療法 ③分子標的治療 ④放射線療法 ⑤骨髄移植	講義	外部講師 (医師)
12回 13回 14回	3 女性生殖器系 (1) 病態と主な症状 ①子宮筋腫 ②子宮内膜症 ③子宮がん ④卵巣がん ⑤不妊症 ⑥性感染症 ⑦子宮外妊娠 (2) 主な検査・治療 ①超音波検査 ②細胞診 ③ダグラス窩穿刺 ④手術療法 ⑤放射線療法 ⑥化学療法	講義	外部講師 (医師)
15回	修了認定試験:筆記試験 100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	ナーシンググラフィカEX 疾患と看護⑥ 眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚 メディカ出版 系統看護学講座 専門基野Ⅱ成人看護学④ 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学⑨ 女性生殖器 医学書院		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
薬理学	1単位(30)	2年次4月	外部講師	あり(薬剤師)

科目目標:

- 1 薬理作用の基礎知識に基づき、薬物の特徴・作用機序・人体への影響および薬物の管理について理解する。
- 2 主な薬物の特徴について理解する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回 2回 3回 4回 5回	1 薬理学総論 (1) 薬理学概説 (2) 生体内情報伝達機構 (3) 薬の作用機序 (4) 薬物の体内動態 (5) 薬理作用と副作用(有害事象) (6) 薬理効果に影響する因子 (7) 禁忌 (8) 薬の管理と法令	講義	外部講師 (薬剤師)
6回 7回 8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回	2 薬理学各論 (1) 抗感染症薬 (2) 抗がん薬 (3) 免疫治療薬 (4) 抗アレルギー薬・抗炎症薬 ①抗ヒスタミン, 抗アレルギー薬 ②非ステロイド, ステロイド (5) 末梢での神経活動に作用する薬物 ①交感神経作用, 副交感神経作用 ②抗コリン作動薬 (6) 中枢神経系に作用する薬物 ①全身麻酔薬 ②催眠薬, 抗不安薬, 抗精神病薬 ③麻薬 (7) 心臓・血管系に作用する薬物 ①降圧薬, 昇圧薬 ②狭心症治療薬, 抗不整脈薬 ③強心剤, 利尿薬 ④脂質異常症治療薬 (8) 血液に作用する薬物 ①貧血治療薬, 血液凝固に関する薬 ②血液悪性腫瘍治療薬 (9) 輸液剤・輸血剤 (10) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 ①気管支喘息治療薬, 去たん薬, 鎮咳薬 ②消化性潰瘍治療薬 ③健胃・消化薬, 制吐薬, 下剤, 止痢薬 ④性ホルモン, 子宮収縮薬 ⑤経口避妊薬, 排卵誘発剤 ⑥勃起不全治療薬 (11) 物質代謝に作用する薬物 ①糖尿病治療薬 ②甲状腺疾患治療薬 ③下垂体ホルモン (12) 皮膚科用薬・眼科用薬	講義	外部講師 (薬剤師)
15回	修了認定試験:筆記試験 100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進③薬理学 医学書院		



科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
治療論 I 放射線・手術と治療	1単位(30)	2年次 6月	外部講師	あり(医師) あり(放射線技師)

科目目標： 1 疾病の回復を促進する治療の原理を理解する。  
2 疾病の診断過程と検査について理解する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回 2回 3回	1 放射線治療 (1) 放射線とは (2) 放射線の種類 (3) X線診断 ①X線撮影 ②CT ③造影検査 (4) MRI (5) RI (6) 放射線治療 ①細胞に与える放射線の影響 ②悪性腫瘍と放射線療法 (7) 放射線防護と健康管理	講義	外部講師 (医師)
4回 5回 6回 7回 8回 9回	2 手術療法による治療 (1) 手術療法の目的と意義 (2) 手術侵襲と生体反応 (3) 術後の疼痛管理 (4) 術後合併症 (5) 術後の創傷管理 3 内視鏡的治療 (1) 内視鏡的治療の目的 (2) 内視鏡的治療	講義	外部講師 (医師)
10回 11回 12回	4 麻酔による治療 (1) 麻酔の目的 (2) 麻酔の種類と主な麻酔薬 ①全身麻酔 ②局所麻酔 (3) 麻酔・手術による侵襲と麻酔の管理 ①術前管理 ②術後管理	講義	外部講師 (医師)
13回 14回	5 臨床検査 (1) 臨床検査の種類 (2) 臨床検査機器の種類 (3) 検査データの見方、読み取り方 栄養・電解質バランス, 感染徴候, 肝機能, 腎機能, 出血傾向	講義	外部講師 (放射線技師)
15回	修了認定試験:筆記試験 100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	系統看護学講座 別巻臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
治療論Ⅱ 栄養学・リハビリテーション	1単位(30)	2年次 5月	外部講師	あり(栄養士) あり(運動療法士)

科目目標:

- 1 健康にとっての食事・栄養の意義と食事療法について理解する。
- 2 リハビリテーションの概念と方法について理解する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回 2回 3回 4回 5回 6回 7回	1 健康と栄養 (1) 健康のレベルと食習慣 (2) 食事摂取基準と栄養評価 (3) 食事療法の意義 (4) 治療食の形態的・成分的分類 (5) 治療に伴う食事の種類 ①糖尿病食 ②腎臓病食 ③高血圧・心臓病食 ④肝臓病食 ⑤膵炎・胆嚢炎・胆石症食 ⑥貧血食 ⑦胃腸病(術前・術後の栄養管理) (6) 特殊栄養 (7) NST(栄養サポートチーム)の役割	講義	外部講師 (栄養士)
8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回	2 リハビリテーション (1) リハビリテーションの概念 (2) リハビリテーションの対象の理解 ①リハビリテーションを必要とする人の身体的特徴 ②リハビリテーションを必要とする人の生活上の特徴 ③リハビリテーションを必要とする人の心理的特徴 (3) おもな機能評価 ①関節可動域(ROM) ②徒手筋力テスト(MMT) ③高次脳機能障害評価 ④嚥下機能評価 ⑤機能的自立度評価(FIM) (4) 機能障害のアセスメント (5) リハビリテーションの実際 ①ADLの再獲得に向けたリハビリテーション a 歩行・移動 b 杖歩行 c 車イス⇄ベッド ②機能障害別リハビリテーション a 運動機能障害リハビリテーション b 心機能障害リハビリテーション c 高次脳機能障害リハビリテーション d 嚥下障害リハビリテーション	講義	外部講師 (運動療法士)
15回	修了認定試験:筆記試験 100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院 糖尿病食事療法のための食品交換表 文光堂 実践リハビリテーション看護 脳卒中を中心に 照林社		